

## 七 九種 件

### 1 華南方面における諸問題

763 昭和10年1月8日 在廣東河相總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

#### 広東省政商団と三井物産の間に滿州大豆一手

##### 輸入に関する交渉進行中について

付記

一月三十一日発在廣東中原(三郎)駐在武官より吉田(善吾)海軍省軍務局長他宛電報機密第三九七番電

右交渉の詳細

広 東 1月8日後発  
本 省 1月8日後着

<sup>(1)</sup>第六號  
廣東省政府財政廳長區芳浦ヨリ豫テ當地三井ニ對シ輸入滿洲大豆專稅ヲ擔保トシ銀二百萬弗許リノ借款方内密申込アリタルモ條件其ノ他ノ點ニテ行惱ミ中最近支那側政商ノ一

團ト三井トノ間ニ滿洲大豆一手輸入ノ話持上リ三井モ先方ノ顏觸等ヨリ乘氣トナリ此處一週間内ニハ具体的ニ話ノ進行スル段取ニ迄進ミ居レリ右政商團ハ協成公司ト銘ヲ打チ陳維周(陳濟棠ノ兄、密輸元締ヲ以テ知ラル人物)傳翼之(廣州市商會々頭)鄧瑞人(國華銀行董事長)鄒殿邦(元廣州市電燈廠社長)沈超如(沈戴和ノ弟)伍哲夫(陳融ノ女婿省政府對外貿易委員會秘書長)等ノ一味ニシテ廣東實力派ノ兩巨頭區芳浦林翼中ノ何レカ又ハ兩人カ其ノ背後ニ糸ヲ引キ居ルモノノ如ク先ツ三井ニ對シ大豆一手輸入ノ特權ヲ賦與シ表面ハ三井ノ代理店トシテ每擔大豆五十仙豆粕十五仙(原價ノ約一割)ノ手數料ヲ取ル形ニシ利益壟斷ノ誹ヲ免ル仕組ナルカ右手數料ノミニテ年收一百萬弗ヲ下ラサル見込ノ由ナルカ或ハ右公司ハ所屬ノ機關ヲシテ三井ヨリ輸入大豆ヲ引受ケシメ之ヲ豆商ニ高値ニ拂下ケ莫大ノ利益ヲ擧ケントスル魂膽カトモ想像サル

<sup>(2)</sup>一味ノ者ノ口ヲニラシタル所ニ依レハ將來廣東ニ於テハ貿易ノ者ノ口ヲニラシタル所ニ依レハ將來廣東ニ於テハ貿

易統制ヲ實施スヘク其ノ際ハ其ノ主任ニハ右政商團中ヨリ任命ヲ見ル豫定トナリ居リ公司ハ其ノ前身トモ謂フヘク先ツ手始メニ滿洲大豆ヲ處置シ追テ「セメント」砂糖ニモ及

ホスカ如キ口吻ナリシ趣ナルカ「セメント」砂糖ハ現ニ多量ノ「オフィシャル、スマグリング」行ハレ良好ナル省ノ

財源ニ爲シ居ル實狀ナルヲ以テ今後中央トノ政治關係如何

ニ依リ又其ノ他特殊ノ理由起ラハ格別目下ノ處其ノ點疑問

テ當初ヨリ之ニ關係シ三井トノ橋渡ヲモ爲シタルモノノ由支、滿ヘ轉電セリ

(付記)

軍艦嵯峨 1月31日後発  
海軍省 2月1日前着

第三九七號

一、十二月初メ兩廣鹽運使者陳維周(陳濟棠ノ兄)ト會見廣東ニ於ケル兩國ノ經濟關係現狀打開提携等ニ就テ論議セル際陳ハ考慮ヲ約シ別レタル處十二月下旬楊品平ヨリ今回廣東財界有力者ニテ協成公司ナルモノヲ組織シ日本品ノ取引ヲ致度ニ付日本側商社ニ紹介方依頼シ來レルヲ以テ差當リ三井ニ照會セル處兩者會見ノ結果公司側ハ將來有ユル日本品ヲ取扱フモ季節ノ關係モアリ第一段トシテ滿洲大豆其ノ他ニ付商談ヲ申出タリ

二、然ルニ滿洲國大豆ハ既ニ成發東ト廣東商人側トノ間ニ契約モアルコト故該公司ノ正体ヲ確ムル爲其ノ後一、二回三井ト會談セシメタル所本月二十日先方ヨリ次ノ如キ案

ヲ提示シ來レリ

多少ノ關聯アルヘキヲ以テ三井ニ對シテハ愈話ヲ進行スルニ際シテハ日本側内部ノ關係ヲ圓滿ニ取纏メタル上ノコト

トスルコト肝要ト存ス尙本件ハ當地中原海軍武官ノ知合ナル楊建平(陳銘樞派十九路軍殘黨)カ陳維周ト昵懇ノ間柄ニ

三、廣東政府ハ雜糧統制局設置ノ計畫アリ而シテ該局ハ設置

後公司ハ政府ニ對シ專稅三百萬弗ヲ前納スルコトニ依リ

廣東全省輸入ノ大豆、豆粕、豆油等一手納入權獲得ノ了

解ヲ得タルヲ以テ政府保障ヲ受ケ一手購入ニ關スル契約

ヲ締シ度旨申出デ來レルヲ以テ右ハ初メノ純然タル取

引トハ全然異ナリ大ナル難點アリトテ説明ヲ聽キ置ク程度ニ止メ置ケリ

四、一昨一十九日先方ノ申出ニ依リ陳維周ト會見セルトコロ

陳ハ經濟關係打開提携策ニ關シ政府トモ種々協議シタル

結果第一段トシテ前項ノ成立ヲ切望シ居ル處若シ日本側

ニテ公司ニ對シ貸與スルコト不安ナレバ政府ト直接借款

スルコトトナシ差支無ク返濟ハ專稅ヲ擔保トシ一年乃至

二年ニテ完濟ノ見込ナルモ以上ニ及ブトキハ別ニ返濟ノ

途ヲ保障スペキニ付之ガ成立ニ關シ斡旋方懇請セリ

五、協成公司成立及政府筋トノ關係等ヨリ察シ相當有力ニシ

テ之ヲ利用スル時廣東ノ建設事業其ノ他經濟的ニ喰込ム

機會ヲ得ル可能性アリ我方トシテハ昨年末滿洲指導ノ強化ニ伴ヒ滿鐵ヲ通ジ對支經濟的進出ノ實現近キニアル際

764 昭和10年2月17日 在広東河相總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

### 蔣介石の対日關係改善政策に対する西南勢力の反応振りについて

廣 東 2月17日後發  
本 省 2月18日前着

#### 第二五號

南京ニ於ケル蔣ト有吉公使及鈴木武官トノ過般ノ會談ハ西南側ノ神經ヲ極度ニ刺戟シ李宗仁ノ如キ當地陸軍武官ヲ招キ之カ説明ヲ求メ時ヲ移シ遂ニ午前四時ニ及ヒタル由過日

來甘介侯及陳仲孚<sup>(仲子)</sup>ハ夫々李宗仁及陳濟棠ノ意ヲ受ケタルモノト覺シク相繼テ本官ヲ來訪シ右會談ノ内容ヲ確カメムト試ミ種々談話スル所アリタルカ彼等ノ談話ト各方面ノ情報トヲ照合スルニ西南側ニ於テハ蔣介石ノ實力解決發動ノ氣勢昨今甚タシク切迫シ來レルモノト感シ居ルモノノ如シ其ノ理由トスル所概不左ノ通

一、會談ノ内容及直後抗日運動禁遏ノ聲明ヲ發シタル事實ハ何トシテモ蔣ノ對日政策ニ一大轉向アリタルコトヲ示スモノニテ之ニ依リ蔣ハ日本側一般ノ好感ヲ贏タルニ相違ナカルヘク一部日本人カ我ニ向ツテ説明スル如ク事實偽裝親善ナリトスルモ此ノ說ヲ以テ此ノ好感ヲ抹消スルコト果シテ可能ナルヘキヤ疑ナキ能ハス從テ蔣ハ後顧ノ憂ナク愈實力解決ニ取カカル爲ノ準備工作ニ成功セルモノト謂ハサルヘカラス之ハ福建事件ノ前例ニ徵シ明白ナリ

三、蔣カ最近殊ニ執拗ニ胡漢民ノ外遊乃至ハ北上ヲ焦リ居ルハ唯單ニ胡ノ言論ノ威力ヲ忌憚スルニ止ラス兩廣結束ノ楔ハ畢竟胡ナリト睨ミ彼ヲ香港ヨリ驅逐シ兩廣分離工作ニ便ナラシムル魂膽ニ外ナラス

三、貴州方面ニ於ケル情勢ハ逐次中央ニ有利ニ展開セリ即チ

最モ時機ヲ得タルモノト思考セラルルニ付此際至急代表者派遣ノコトニ取計ハレ度

本件ハ領事館陸軍側トモ緊密連絡シ支那側ノ裏面的指導員會秘書長楊建平(前廣東中央銀行々長)等ニシテ背後ニ萬全ヲ期シツツアリ念ノ爲

六、協成公司主腦者ハ鄧瑞人(國家銀行董事長)傳益之(廣東全省商會々長)鄒殿邦(有力ナル實業家)伍哲有(對外全委員會秘書長)楊建平(前廣東中央銀行々長)等ニシテ背後ニ陳維周、沈戴和(廣東銀行長)關係シ居レリ。

當初ノ貴州入リニ於テ既ニ中央ハ完全ニ西南ノ機先ヲ制シ廣西軍ハ殆ト全軍ヲ舉ケテ貴州ニ入りタルモノノ最早手モ足モ出テ斯且陳濟棠ハ首鼠兩端ヲ持シテ兵ヲ進ムルコト遲々慢々流石ノ白崇禧モ徒ニ焦慮スルノ尙貴州王家烈ハ既ニ早ク駐粵代表ヲ引上ケ濟棠死電報等ニハ後悔ノ口吻ヲ洩シ居ルモ中央ノ勢威ニ懼伏シ夫人ヲ南京ニ派シ本領安堵<sup>(堵)</sup>ヲ運動セシメツツアリ雲南龍雲モ夙ニ西南ヲ離レ居リ且中央ハ目下貴州ニ在ル薛岳軍等十四、五萬ノ外新二十數萬ヲ入川セシムル計畫アリ共匪ノ省外驅逐ヲ名トシ之ヲ南方ニ壓迫スルヲ裝ヒ一舉ニ廣西ニ侵入シ來ルヘシ

四、從來廣東軍ノ入黔方促シ居タル中央力俄ニ十三日夜第二軍司令部ノ廣東出發間際ニ及ヒ突如兩廣入黔部隊ノ撤退ヲ命令シ來レル爲(第二軍ノ二箇隊ハ柳州ニ足踏ミシ一箇隊ハ同地向行軍中)事ノ意外ニ西南側ハ中央ノ廣西攻撃ノ期愈近ツキタルモノノ如キ疑惑ヲ深メ居ル由右命令接到ト同時ニ久シク當地ニ止マリ專ラ陳濟棠ト折衝シ居タル李宗仁ハ急遽出發歸桂ノ途ニ就ケリ右ハ廣西軍ヲ白崇禧ノ指揮ニ一任シ置クニ於テハ自然中央軍トノ衝突ノ

機ヲ早ムル虞アリ李自ラ乗込ミ要スレハ薛岳等傍系部

ト折衝シ局面ノ緩和ヲ計ラン爲カト觀測セラル

因ニ陳濟棠ハ中央ノ合作要求ニ對シテハ今日迄細心ニ正

面衝突ヲ避ケ既ニ中央トノ内部關係ニ於テハ中央ノ意ニ

從ヒ總司令ノ名義ヲ廢シ各省並ニ綏靖主任ノ職名ニ甘ン

シ居ルモノノ如ク軍政統一ノ四綱目ノ原則ニ付テモ敢テ

強ク盾突クコトナク專ラ恭順以テ敷衍ノ策ニ出テ居ルモ

ノノ如クナル處昨今内外ノ形勢西南ニ芳シカラサル爲カ

最近廣東省出身者ノ結束ヲ固ムル意味合ニテ第三黨關係

者等ニ對シ續々歸國方懲憲シ居リ軍費調達ニ縣命ナル模

様ナリ

支、北平、在支各總領事、廈門、汕頭へ轉電シ香港へ暗送

セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

765 昭和10年6月1日 在中國堀内大使館一等書記官より

広田外務大臣宛

外務大臣

廣田 弘毅殿

昭和十年六月一日附在南京須磨一等書記官宛機密第一三六

號信寫付  
廣東省ニ於ケル輸移出入品ニ對スル不當措置  
二關スル件

廣東省における不当課税の是正に關し中國外

交部に公文送付について

機密公第三三六號  
昭和十年六月一日  
在中華民國  
大使館一等書記官 堀内 干城  
在南京  
一等書記官 須磨 彌吉郎殿  
廣東省ニ於ケル輸移出入品ニ對スル不當措置  
二關スル件

本件ニ關シ五月下旬本省來訓ノ趣旨ニ基キ外交部宛公文別

紙ノ通作成送付スルニ付右外交部ニ御轉交相成度尙右轉交  
ニ際シ貴官ハ口頭ヲ以テ特ニ最近ニ於ケル事例即チ汕頭ニ  
於ケル「セメント」不當抑留事件及廣東海關ニ於ケル人造  
肥料輸入許可制度ノ實施ニ關シ適宜御説明ノ上本件不當措  
置ノ是正方嚴重抗議相成度

本信寫送付先 外務大臣、北平、天津、上海、青島、廣

東、漢口、福州、廈門、汕頭

(別 紙)  
外第一〇號

拜啓。陳者、廣東省政府ニ於テハ外國農產品專稅、同附加  
稅、石油販賣營業稅、石油原油輸出入登記料、外國「セメ  
ント」附加稅、外國顏料專稅、印刷用油墨統稅、洋紙專稅、  
糖類捐及蠶糸改良費等各種内地稅手數料等ヲ徵收スル外  
國「セメント」輸入手續、石油原油ノ輸移入登記制度、  
「タンクステン」鑛ノ專賣制度、罐詰食料品輸入手續、  
洋銀ノ輸出制限、人造肥料輸入手續、糖類營運取締規則等  
ヲ制定實施シ居ル處、凡ソ中國ニ輸入セラル外國品ハ輸  
入者ノ何國人タルヲ問ハス關稅以外如何ナル稅捐手數料ヲ

モ課徵セラルルコトナク、又外國人ハ中國生產貨物ヲ輸出  
スルニ當リ輸出稅以外一切ノ稅捐手數料ヲ課セラレサル儀  
ナルハ勿論、專賣制度ヲ實施シ中國ニ於ケル外國人ノ製造  
販賣權ヲ束縛シ妄ニ輸出入ニ制限禁止ヲ加ヘ、或ハ煩瑣ナ  
ル手續ヲ強要シ貨物ノ自由ナル取引ヲ阻碍スルカ如キコト  
無カルヘキ次第ハ、何レモ條約ニ依リ保障セラル所ナル  
ニ付、前顯各項ノ課稅及制度ハ明カニ現行條約ニ違反スル  
不當ノ措置トシテ帝國政府ノ容認シ難キ所ニ有之候。本件  
ニ關シテハ客年來廣東省政府當局ニ對シニ在廣東帝國總領事  
ヲシテ屢次抗議セシメ來レルモ、今日迄何等之カ是正ノ道  
講セラレサル有様ニシテ、最近ニ於テモ汕頭海關ニ於テ邦  
商輸入ノ「セメント」カ物產經理局ノ輸入許可證ノ提出ナ  
キヲ理由トシテ不當ニ抑留セラレ、又人造肥料ノ輸入ニ關  
シ廣東海關カ省政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ省農林局發給ノ  
輸入證明書ノ添付ヲ必要トスル旨ノ告示ヲナシ居ルカ如キ  
事例有之、殊ニ中央直轄下ニアル海關カ右ノ如ク條約上不  
當ナル地方的制度ノ實施ニ協力シ居ルハ中國海關ノ完全性  
ヲ破壞シ該制度ノ根本ニ觸ル問題ニ有之之カ急速是正ノ

機密公第三四一號

(接受日不明)

昭和十年六月一日

在中華民國

大使館一等書記官 堀内 干城

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和十年六月一日附在南京須磨一等書記官宛機密第一三六

號信寫付  
廣東省ニ於ケル輸移出入品ニ對スル不當措置  
二關スル件

右御了悉ノ上廣東省ニ於テ現ニ行ヒツツアル前記不當課税及不當措置ヲ一律撤廢セシムル様御訓令相成度尙何分ノ儀御回答相成度此段照會得貴意候。敬具。

昭和十年五月三十一日

國民政府外交部 御中

日本帝國大使館

766 昭和10年6月12日 在広東河相總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

### 西南勢力の対中央政府政策と対日政策の関連性について

広 東 6月12日後発

本 省 6月13日前着

第一一四號

胡漢民外遊問題ニ關シ動機經過期間等ノ諸點ニ付支那側ニモ諸說紛糾要人ハ口ヲ緘シテ語ラス甚々眞相ヲ得ルニ苦ミ居ル次第ナルカ少シク過リ今次ノ胡出遊ト關係アリト認メラル最近ノ兩廣軍事會議開催ノ經緯ヲ探究シミルニ畢竟本會議ハ中央ノ西南ニ對スル工作頓ニ進展シ來タリ其ノ結

果兩省ノ聯絡統一ヲ今後一層密接ナラシムル必要ヲ生シタル爲ト認メラル而シテ本月一日白崇禧發陳濟棠宛極秘電ニ依ルニ白ノ見透シハ中央ヨリ兩廣ニ對シ直接兵ヲ用フルコト斷シテ無ク却テ「内部ノ勾結ト煽亂」トヲ戒メ居リ察スルニ中央ノ對西南積極對策ハ武力的壓迫ヨリモ寧口政治解決内部切崩ト見ルコト至當ナルヘク中央系廣州日報ノ如キ頻リニ  
南北妥協問題ノ動キヲ傳フルニ反シ西南系新聞ハ一齊ニ沈黙ヲ守リ居ル等又右觀察ヲ裏書スルモノカト思ハル茲ニ於テ李、陳トシテハ對中央策トシテ和戰何レノ場合ニセヨ從來ノ如ク抗日一本調子ニテハ甚々時勢ニ副ハス對日轉換ノ切實ナル必要アリトノ結論ニ達シタルモノノ如ク陳ヨリ白宛極秘電ニ「日本人ハ二重外交ヲ以テ我國內亂ヲ企圖シ漁夫ノ利ヲ占メントスルハ余モ亦之ヲ知ラサルニ非サレトモ勢ノ趣ケ處之ヲ措キテ他ニ途無シ」云々ト申送リタルニ對シ白ヨリ「余ハ外交上ノ牽制ハ之ヲ爲スニ忍ヒサルモニ兄ノ意既ニ決スレハ又何ヲカ言ハム余亦之ヲ守持スヘシ」トノ意ヲ明カニシ居レリ此ノ白ノ態度ハ本官先般南寧ニ於テ同人ト會談ノ際得タル印象ニ依ルモ首肯セラル斯くて李、

トハ思ハレス唯中央ノ壓力ニ基キ陳李カ出遊ヲ獎ムル事無キニシモ非サレトモ之トテ證左無ク結局目下ノ處李陳ノ對日政策變更カ出遊ノ動機トナリタルモノト推測スルノ外無シ  
支、北平、天津、南京、濟南、漢口、福州へ轉電シ香港へ暗送セリ

767 昭和10年6月17日 在広東河相總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

### 西南方面主要將領の対日觀と反蔣運動との関係に関する観測について

広 東 6月17日後発

本 省 6月18日前着

第一二一號(極秘)

胡ノ外遊ニ對シ蔣介石個人名義ニテ最近旅費ヲ送り來リタル事實アリ胡漢民ハ之ヲ峻拒セルモノノ如ク(西南政務委員會ヨリ送レル三十萬元中二十萬元ハ還シタルヤノ噂アリ)李、陳個人ヨリ送金セル事無キ由李ノ側近者ハ語リ居レリ)從テ胡ノ出遊カ中央ノ彼自身ニ對スル懇請ニ基クモノハ勿論默過スル事モ亦困難ナルヘシ之力爲一時身ヲ交ハス爲免ニ角外遊ヲ決心セルモノニ非サルカ

胡ノ外遊ニ對シ蔣介石個人名義ニテ最近旅費ヲ送り來リタル事實アリ胡漢民ハ之ヲ峻拒セルモノノ如ク(西南政務委員會ヨリ送レル三十萬元中二十萬元ハ還シタルヤノ噂アリ)李、陳個人ヨリ送金セル事無キ由李ノ側近者ハ語リ居レリ)從テ胡ノ出遊カ中央ノ彼自身ニ對スル懇請ニ基クモノハ勿論默過スル事モ亦困難ナルヘシ之力爲一時身ヲ交ハス爲免ニ角外遊ヲ決心セルモノニ非サルカ

ミニ出テタルニ過キスシテ未タ擴大ノ氣配見エス胡漢民出遊シ蕭佛成モ振ハス所謂元老派ハ目下ノ處左シテ問題ニ非サルカ唯問題トナルハ此ノ事件カ西南軍閥ノ反蔣心理及反蔣運動ニ如何ニ影響ヲ與ヘタリヤノ點ナリ種々ノ觀測アルヘキモ恐ラク反蔣運動促進ノ刺戟トハナラスシテ却テ少クトモ一時反蔣運動ヲ弛緩セシムル結果トナラスヤト思ハル陳濟棠カ日本ノ對支外交ヲ以テ二重政策ト斷シ居ル事ハ前報ノ通ナル處或ハ彼ノ性格ヨリ見テ今度ノ事件ヲ自己保存ニ利用セントスル事必無ト言ヒ難キモ李、白二至リテハ恐ラクサル事無カルヘシ李、白ノ反蔣意識ハ到底陳ノ比ニ非ス徹底的ナリ過般李ハ當地ニ於テ松本ニ對シテモ反蔣ノ心事ヲ大膽ニ告白セル由ナルカ然シ乍ラ其ノ際陸軍カ北支事件ヲ捲キ起ス事ハ實ハ自分等ニ執リテハ皮肉ニモ反蔣運動ノ邪魔トナルト謂フカ如キ口吻ヲ漏シタル由其ノ後李ハ香港ニ出テ本官親シク其ノ感想ヲ聞クヲ得サレトモ恐ラク今日モ變ル所無カルヘシ茲ニ面白キ事實ヲ見得ヘク白崇禧ニ至リテハ更ニ深刻ナルモノアルヘシ過般本官南寧ニ於テ面會セル節モ辱國喪權ノ外交ハ斷シテ執ラス日本力平等互惠ノ公明ナル態度ニ出ツルナラハ喜ンテ提携スヘシ

768 昭和10年6月20日 在広東河相總領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

我が方の対西南武器供給に関する情報について  
広 東 6月20日後発  
本 省 6月20日後着  
第五三號

白田ノ内話シタル處ニ依レハ廣西ヘノ第一回兵器供給ニ付テハ最近談合成立シ目下阪神方面ニテ傭船交渉中ナルカ五日程前陳濟棠ヨリモ歩兵砲五十門ヲ先ツ即金ニテ、更ニ八十門ヲ延拂ニテ購入シ度シト申出アリ多分成立スヘク然ル上ハ五十門ハ廣西向ケ武器ト同時ニ八、九月頃黃浦<sup>(浦)</sup>ヘ積送スルコトトナルヘシト云フ爲念  
本省限リノ御参考迄

769 昭和10年6月21日 在福州中村總領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

日中經濟提携および西南方面の政情に関する  
陳儀福建省主席との意見交換について

トキツパリト言ヒ放チ今後ノ我對支外交政策ニ付差出ガマシキ事乍ラ日本モ最早最高ノ國策ヲ決定シテ支那ニ臨マルヘキ時機ニ入りタルニ非サルカト述ヘ居タリ彼ハ天下無双ノ名將ト謳ハルルカ同時ニ理想ノ人ト見受ケラレタリ故ニ一面我公道外交協和外交ニ對シ半信半疑乍ラ尙幾分ノ望ヲ囑シ居ル事感取セラレタルカ他面侵略外交ニ對シ斷乎タル決意ヲ語レリ、サレバトテ此ノ際彼カ直ニ抗日ノ態度ニ出ツヘシトモ思ハレサルカ唯今度ノ事件ニ依リ我協和外交ニ失望シ胸中我國策ニ對スル不信ノ念ヲ深クシタルニ非スヤト思ハル前電何應欽カ今度ノ事件ニ付陳濟棠ニ宛タル電報中確然讓步反對ノ意見ヲ述フル一節ニ「白ノ所見ハ余ト全ク同一」ト述懷シ居レルニ徵シテモ彼ノ心理ハ略々察知シ得ヘシ尙(脱?)ニモ覗ハルル如ク北支事件ニ付テハ中央ト西南トノ間ニハ相當立入リタル電報ノ往復アルモノト認メラルルカ北支事件ノ爲兩者ノ間柄遽ニ緩解セラルルトモ思ハレサレトモ少クトモ反蔣運動ノ氣勢ハ却テ減殺サルルモノト觀ルヲ得ヘシ

(一) 日支親善關係增進ハ當方ヨリ切望スル所ニテ日本ノ援助ヲ希望シ居レルモ福建省内ハ昨今漸ク共匪ヲ鎮壓セル狀態ニテ未タ何ヨリ手ヲ染メテ宜シキヤ未タ調査ノ上ナラテハ具體案立タサル狀態ナルモ借款ノ整理ハ貴官ノ希望ニ應シ直ニ債務委員會ニ整理案ノ作成ヲ督促シ置キタルハ遠カラス貴官ト折衝ノ運ニ至ルヘシト述ヘ

(二) 西南ノ形勢ニ關シテハ軍艦ノ脫出ハ中央ノ指金ニ基クモノニアラス元來北方ニ屬シタルモノナルヲ以テ西南側ト

反力合ハス給與ニ對スル不平ヨリ起リタルモノナリ又最  
近福建省内軍隊ヲ一部移駐シツツアルモ右ハ整理ノ爲ニ  
シテ西南ニ對シテハ彼ヨリ事ヲ構ヘ來ラサル限り我ヨリ  
仕掛クルコト無ク胡漢民ノ外遊ハ彼ノ意見カ西南側ニ容  
レラレサルニ依ルモノト觀察スル旨ヲ語リ  
(三)自分(陳)ハ一般政務報告ノ爲廿三日飛行機ニテ上京シ約  
十日間滯在ノ豫定ナルカ場合ニ依リテハ成都ニ赴キ蔣委  
員長ニ面會ノ所存ナリト内話セリ  
支ヘ轉電シ北平、上海、南京、廣東、廈門、漢口ヘ暗送セ  
リ

770 昭和10年9月6日

廣田外務大臣より  
在広東河相總領事宛(電報)

廣東ヨリ香港ニ暗送アリ度ン  
支、南京、福州、廈門ニ轉電セリ

合第六三一號(極秘)

本省 9月6日發

外國農產品等の搬入に対する税を納めない邦  
商を極刑に処すべしとの廣東軍憲の密令に關  
する情報について

廣東ヨリ香港ニ暗送アリ度ン  
支、南京、福州、廈門ニ轉電セリ

合第六三一號(極秘)

本省 9月6日發

合第六三一號(極秘)  
往電合第六三一號二關シ  
事端ノ發生ヲ阻止スル爲責地方居留民ノ行動ニ注意セシム  
ル一方往電合第六三一號「」内ノ趣旨ヲ例ヘハ籍民間ノ  
風説トシテ支那側ニ申聞ケラレ万一千様ノ計畫アルニ於テ  
ハ右ハ甚々不都合ニシテ由々シキ問題ヲ惹起スヘキ旨警告  
ヲ與ヘ置カレ度尙海軍ヨリモ出先ニ對シ貴官ト協力スヘキ  
旨電訓セリ  
本電宛先及轉電先冒頭往電ノ通

772 昭和10年9月(7)日

在広東河相總領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

未納稅邦商極刑の密令に関する中國側關係當局への警告方法につき意見具申

廣 東 発

本省 9月7日後着

第一七七號(至急、極秘)

本官發汕頭宛電報(日本人密輸者死刑一件)

773 昭和10年9月9日

在廈門山田芳太郎領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

未納稅邦商極刑の密令に関する中國側關係當局への警告方法につき意見具申

廣 東 發

本省 9月7日後着

773 昭和10年9月9日

在廈門山田芳太郎領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

## 未納税邦商極刑の密令に關し不祥事防止のた

め汕頭に海軍第五水雷戦隊派遣について

付記 九月十六日發在香港水沢總領事より広田外務大臣宛電報第五八号

右軍艦の汕頭入港に關する中國紙報道振り

厦門 9月9日後發

本省 9月9日後着

第一〇一號

本官發汕頭宛電報

第八號

大臣發貴官宛電報合第六三二號ニ關シ

第五水戰隊本九日午後八時當地出港貴地ニ向フ尙同戰隊ハ

貴地ヲ經テ香港ニ赴ク豫定ナリ(須賀武官便乗ス)

大臣、支、南京、廣東、福州へ轉電セリ

廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

(付記)

香 港 9月16日後發  
本省 9月16日後着

未納税邦商極刑の密令に關し陳濟棠第一集團  
軍總司令に警告申入れについて

774 昭和10年9月11日 在広東河相總領事より  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
775 昭和10年9月15日 在汕頭原田領事より  
支、汕頭、廈門、福州、南京へ轉電シ香港へ暗送セリ  
スル件)

本官發汕頭宛電報第二一號ニ關シ(日本人密輸者死刑ニ關  
第一七九號(極秘)

775 昭和10年9月15日 在汕頭原田領事より  
支、汕頭、廈門、福州、南京へ轉電シ香港へ暗送セリ  
スル件)

十日陳濟棠ニ面會ノ上拙案ノ通り申入レタル處稍顏色ヲ變  
シ言下ニ右情報ハ何レヨリ出テタリヤト出所ニ付銳ク質問

シ來レルニ付右ハ御答シ難シ唯本件申入ハ在汕頭領事ノ通

報ニ基クモノナルコト丈ヶ御答シ置クヘシト述ヘタル處次

テ陳ハ密輸取締ハ財政廳ニ於テ管掌シ居リ部下軍隊カ之ニ

干與スルカ如キコト絕對無シト繰返シ辯明セルカ受謝シ置

ケリ

往電第七一號ニ關シ

十日、十一日ノ兩日ニ亘リ掲陽ニ於テ邦商搬入ノ米、豆約

三千弗同地公安局ニ差押ヘラレ十三日附公文ニテ抗議中ノ

處藉民ノ齋セル情報並ニ十四日當地新聞記事ニ依レハ掲陽

縣長ハ上司ノ命ニ依リ十二日同地民船公會、商會、穀類同

業者代表ヲ召集シ協議ノ結果縣下小商民ハ無稅米ノ不買ヲ

斷行スルコトトシ且ツ此ノ種商品ヲ取扱フ支那商ヲ嚴罰ニ

處シ貨物ハ押收スルコトニ決シ其ノ旨同業公會ヲシテ傳單

ヲ以テ周知セシムルコトトセル趣ニテ右ハ明カニ通商妨害

ト認メラルニ付直ニ市政府ニ對シ嚴重抗議シ反省ヲ促シ置ケリ委細公信

支、南京、福州、廣東、廈門へ轉電シ香港へ暗送セリ

見當ノ安値ナルヲ以テ青島鹽ニ比較シテ充分採算可能ナル

趣ナリ  
ルニ御承知ノ如ク鹽ノ輸出ニハ財政(部)ノ特許ヲ要シ  
テ鹽分九十%以上ノモノ積込費ヲ入レテ原價一擔約二十仙  
通ノ手續ニテハ輸出鹽ノ密輸入ヲ防止スル爲ニ一擔ニ付十  
弗四十仙ノ(當地ニ於ケル鹽稅ニ相當)保證金ノ供託ヲ要  
シ仕向國ニ輸入セラレタル旨ニ支那領事ノ證明アリタル場  
合ニ右供託金ハ拂戻サルル規定ニテ之カ爲ニ普通ノ商取引  
到底不可能ナル状態ナリ

福建省產出鹽ハ年額三百萬擔ニ達スルニ拘ラス消費量ハ高  
率ナル鹽稅ト民度ノ疲弊トニ禍セラレ百萬擔ヲ出テス益々  
減少ノ傾向ニアリ當局ハ已ムナク減反ニ依リ生產制限ヲ實  
施シツツアリ

然ルニ本邦ニ於ケル工業鹽ノ輸入ハ年額百萬噸ノ巨額ニ達  
シ最近阿弗利加ニ於ケル戰時氣分ノ爲供給ニ懸念セラレ居  
ルヤニテ現ニ當地籍民林熊祥ハ本邦旭硝子會社ヨリ年額四  
萬噸迄ノ買入ヲ託セラレ居リ鹽務並ニ省當局ニ付調査シタ

776 昭和10年9月26日 在福州中村總領事より  
広田外務大臣宛(電報)  
福建省產鹽の我が方購入を同省政府が經濟提  
携の觀点から提議について

福州 9月26日後發  
本省 9月27日前着

第一〇三號

福建省產出鹽ハ年額三百萬擔ニ達スルニ拘ラス消費量ハ高

可スル意嚮アリヤヲ電報ニテ照會シ又近ク債務整理問題ニ  
テ南京ニ赴クヘキ自分ニ對シ密輸入ニ對スル防止方法ハ外  
ニ辦法ヲ講スルコトトシ日本方面ニ賣込ノ日支經濟提携ノ  
立場ヨリスルモ有利ナルコトヲ說得スル様内命ヲ下シタル  
本官他用ニテ面談ノ節陳儀初メ鹽務當局モ輸出物無キ福建  
省トシテハ現ニ持テ餘シ居ル鹽ヲ日本ニ輸出シ福建省民ノ  
收入ヲ增加センコトヲ熱望シ居ル旨ヲ語リ又林知淵ハ極秘  
トシテ本官ニ對シ陳儀ハ現財政部長孔祥熙ニ對シ福建省ノ  
窮狀ヲ訴ヘ供託金制度ニ除外例ヲ設ケ日本ニ對シ輸出ヲ許  
テ南京ニ赴クヘキ自分ニ對シ密輸入ニ對スル防止方法ハ外  
ニ辦法ヲ講スルコトトシ日本方面ニ賣込ノ日支經濟提携ノ  
立場ヨリスルモ有利ナルコトヲ說得スル様内命ヲ下シタル

777 昭和10年9月27日 在廣東河相總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

揭陽における邦商貨物抑留事件の解決を陳清  
棠に要請について

廣東 9月27日後發  
本省 9月27日前着

第一九四號(至急)

汕頭發閣下宛電報第七三號ニ關シ

十七日本官林主席宛書面抗議シ置ケル處本二十六日劉紀文  
ヨリ甚々誠意無キ回答ヲ返シ來レリ他方陳濟棠ト直談ヲ試  
ミント欲シ面會ヲ求メタルモ彼元來田舎士ニテ自ラ高ク持  
シ平日人ヲ見下スノ風アリ其ノ問題ナラハ外交機關ニ交渉  
アリタシトテ容易ニ面會ヲ肯セス押問答ノ末漸ク昨二十五  
日ニ至リ面會ヲ約セルカ本件ニ付テハ一方李宗仁ニ對シ事  
ノ次第ヲ篤ト説明セル處李ハ痛ク事態ヲ憂慮シ側面ヨリ陳  
濟棠說得ニ努メ又二十四日ノ政務委員會ニ於テ王面ヲ崩シ  
西南ノ對日外交方針修正ノ必要ヲ痛論シタル由ニテ(李關  
係ノミハ特ニ極秘ニ願フ)其ノ關係モアリテカ面會ヲ承諾  
セルモノト思ハル右面會ニ於テ本件ハ密輸ニアラス正當輸  
手當ハ暫ク自分等ニ一任セラレ度シト語リ居リタリ

尙林熊祥ノ照會ニ關シ林知淵ハ本官ニ對シ財政部及鹽務署  
側ニハ所謂歐米派モ鮮カラサルヲ以テ陳儀ハ最親交アル財  
政(部)長ニ極秘親展ノ照會ヲ爲シ居ル次第ニ付南京方面ノ  
手當ハ暫ク自分等ニ一任セラレ度シト語リ居リタリ

七 雜 件 支、南京、廈門へ轉電セリ

入ナルコトヲ篤ト説明ヲ與ヘタル上

(一) 本件支那官憲ノ權力行使ハ國家權力ノ不當使用ニシテ畢竟暴力ト言ハサルヲ得ス眞逆貴方ハ暴ヲ以テ暴ニ酬ヒ來ルコトヲ待受ケ居ラルモノニアラサルヘシ速二人及物ノ抑留ヲ解除サレタシ

(二) 十日貴下ノ聲明ヲ裏切り本件取締ニ兵力關係シ居レリ右ハ貴下ノ承知サレサルコトハ存スルモ本件ニ携ハル下級文武官ノ心理匡正ノ爲當區綏靖委員發密令ノ取消ノ措置ヲ講セラレタシ

以上二點措置サレタル上本件並ニ廣東省内地稅問題一般ニ付公平妥當ノ解決ヲ求ムル趣旨ヲ以テ交渉ヲ開始スルコト致度シト述ヘタル處彼ハ余ハ軍事長官ニシテ事ハ余ノ權限外ニ屬ストカ綏靖委員ハ單純ナル軍官ニアラストカ種々形式論ヲ擔キ出シ逃ヶヲ張リタルヲ以テ形式論ハ止メラレタシ廣東省最高權力者タル貴下ニ本件大局ヨリ打算シ政治的考慮ヲ求ムルニ外ナラストノ趣旨ヲ言葉ヲ盡シ説キタルモ逃ヶノ一點張ニテ將明カス引揚ケタリ彼カ逃ヶヲ張リタル所以ノ詮索ハ別トシ彼ノ旨ヲ受ケタリト覺シキ甘介侯ヨリ茶會ニ託シ本官並ニ服部ニ面會ヲ求メ來リ先方ヨリ話ヲ

油頭 10月5日後発  
本省 10月5日後着

第八六號

往電第八五號ニ關シ

一、掲陽米問題ト五水戰隊長期ニ亘ル在泊ニ關聯シ此ノ一兩

日來市中種々ノ謠言行ハレ日本海軍油頭ヲ占領セントシ

軍事行動ヲ起シツツアリトカ連日兵ヲ上陸セシメ地理等

ノ研究ヲ爲サシメ居レリ等無稽ノ噂專ラニシテ其ノ間狡猾ノ金融業ハ爲ニスル策ヲ弄シ居ルヤノ說モアリ一方香

港、上海等ヨリノ誇大通信モアリ旁々民心相當動搖シ居ルモノノ如シ

二、依テ本官四日午後市長ヲ訪問シ米問題ノ解決延引セル爲

右ノ如キ噂ヲ生ミ解決長引ケハ長引ク程此ノ種ノ風評増

大スヘク成行重視セラレ貴方ノ爲ニモ執ラサルヘシ就テ

ハ本件貨物所有權歸屬ノ點モ先般來ノ説明(往電第八三

號參照)ニテ明白トナレル以上至急貨物ノ返還方ニ付其

ノ筋說得ニ盡力シ本官來訪ノ次第ヲ具シテ省政府へ督促

アリタシト要求セルニ市長ハ其ノ様取計フヘシト答ヘタ

リ

切出シタルカ種々論議ノ間條約關係ニ於テ

(一) 従來支那側カ納得ヲ肯セサリシ本件課稅ノ條約違反タルコトヲ私見トシテハト斷リタルモ兎ニモ角ニモ承認セリ

(二) 彼モ亦多數支那官吏同様邦人ハ商埠地外ニ於テ商賣ヲ爲シ得サルモノトノ誤解ヲ有シ居リ又本邦人ハ條約上原則シ得サルモノトノ誤解ヲ有シ居リ又本邦人ハ條約上原則

シヲ以テ啓蒙シ置ケリ

右ノ如ク先方ノ條約研究モ甚夕行屆カサル點アルヲ發見セルカ結局前顯ニ點明日陳濟棠ニ就キ回答ヲ得之ヲ齋スコトヲ約束シ置ケリ尤モ幾何ヲ期待シ得ヘキヤ先方カ先方故ニ難問ナルヘシ

支、汕頭ニ轉電シ、香港ニ暗送セリ

支、汕頭ニ轉電シ、香港ニ暗送セリ

778 昭和10年10月5日 在汕頭原田領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

第五水雷戰隊の長期停泊による市中の恐慌を指摘し掲陽における邦商貨物抑留事件の迅速

解決を汕頭市長に要請について

油頭 10月5日後発  
本省 10月5日後着

第八六號

往電第八五號ニ關シ

一、掲陽米問題ト五水戰隊長期ニ亘ル在泊ニ關聯シ此ノ一兩

日來市中種々ノ謠言行ハレ日本海軍油頭ヲ占領セントシ

軍事行動ヲ起シツツアリトカ連日兵ヲ上陸セシメ地理等

ノ研究ヲ爲サシメ居レリ等無稽ノ噂專ラニシテ其ノ間狡

猾ノ金融業ハ爲ニスル策ヲ弄シ居ルヤノ說モアリ一方香

港、上海等ヨリノ誇大通信モアリ旁々民心相當動搖シ居

ルモノノ如シ

二、依テ本官四日午後市長ヲ訪問シ米問題ノ解決延引セル爲

右ノ如キ噂ヲ生ミ解決長引ケハ長引ク程此ノ種ノ風評増

大スヘク成行重視セラレ貴方ノ爲ニモ執ラサルヘシ就テ

ハ本件貨物所有權歸屬ノ點モ先般來ノ説明(往電第八三

號參照)ニテ明白トナレル以上至急貨物ノ返還方ニ付其

ノ筋說得ニ盡力シ本官來訪ノ次第ヲ具シテ省政府へ督促

アリタシト要求セルニ市長ハ其ノ様取計フヘシト答ヘタ

リ

情勢判斷ノ區々招キ西南ニ對スル我各部ノ態度方針相互

ノ間ニ齟齬ヲ來スニ至テハ事小ト云フヘカラス其ノ結果トシテ彼等ノ前ニ我方不統制ノ醜状ヲ暴露スル迄ニハ未タ立至ラスト雖彼等ヲシテ我方内兜ヲ見透サシメ我方各部ニ對シ以夷制夷ノ邪念ヲ萌サシムルニ至レルハ決シテ彼等ヲ善導スル所以ニアラス本官ハ過去一歳現地ニ於ケル諸般ノ經験ヨリ廣東政權ハ斷シテ親日ニアラス又其ノ見込モ薄キモノト結論シ居レルモノナルカ今次ノ汕頭一件ニ關聯スル彼等ノ密電ハ右判斷ノ一好資料ト思ハルニ付御参考ノ爲概要別電ノ通り電報ス(電報内容及出所部外絶對極秘)

支 北平、在支各總領事、汕頭へ轉電シ、香港へ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

(別 電)

廣 東 10月12日後発  
本 省 10月12日後着

第二二六號

九日陳濟棠ハ東區綏靖委員李漢魂ニ對シ對日方針ヲ授ケテ曰ク「日本ノ眼ニハ西南政府無キコト川越茂總領事タリシ時代ヨリ然リ余彼等ニ對シ好感ヲ有セス我方トシテハ素ヨ

リ環境上ノ特殊ノ作用トシテ嘗テ異曲調和ニ努メ暫時ノ平安ヲ求メ來レルモ亦自ラ一定ノ限度アリ彼等ニシテ若シ北方軍人ニ對スルノ眼ヲ以テ吾人ヲ見ルナラハ其ノ誤謬タルヤ最モ甚シト謂フヘシ貴下今日責任ノ重大ナルコト各區ノ比ニアラス對日交渉ハ望ムラクハ一二既定ノ方針ニ基キ漢奸ハ素ヨリ之ヲ膺懲シ即チ親日ノ徒輩亦宜シク特ニ注意スヘシ尤モ日本人側ニ對シテハ餘リニ明白ナル態度ニ過キテ前車ノ覆轍ヲ履マサル様セラレ度シ」云々

尙右末尾ハ貴電合第六三一號ノ關係ヲ指スモノト認メラル前電ノ通り轉電轉報セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

780 昭和10年10月15日 在汕頭原田領事より  
広田外務大臣宛(電報)

揭陽における邦商貨物扣留事件は貨物返還に

より解決について

汕 頭 10月15日後発  
本 省 10月15日後着

第九六號(至急)

貴電第一六號ニ關シ(揭陽事件解決辦法)

十四日往電第九三號ノ趣旨ニテ市長トノ間ニ妥結成立十六日掲陽ニ於テ貨物ノ授受ヲ行フ右ニ立會ノ爲双方ヨリ係官ヲ派遣スルコトトシ當方ヨリハ小黒ヲ出張セシムル筈司令

官了解済

交渉經過追電ス右不取敢

支、南京、廣東、臺灣外事課長へ轉電セリ